

行政視察報告

議会運営委員会

議会運営委員会では、人口減少や厳しい財政状況を踏まえ、議員定数の適正化を通じて、円滑かつ効果的な議会運営の実現を目指すため「議員定数のあり方について」を所管事務調査事項としている。

調査、研究を進めるに当たり、本市と同人口規模で令和7年12月定例議会において令和9年11月の次期一般選挙から、議員定数を現在の24人から3人減の21人とする可決した千葉県我孫子市議会を視察することとした。

なお、本視察については議会運営に大きく関わることから、正副議長にも同行を願った。

視察地 千葉県我孫子市議会

視察期日 令和8年8月10日（月）

視察事項 議員定数のあり方について

参加者 （委員長）久保 富弘 （副委員長）湖城 宣子
（委員）寺島 和成、井上たかし、片谷 洋夫
阿部 悦博、島崎 実、鴻井 伸二
（議長）山崎 勝 （副議長）山内公美子
（随行…宿谷事務局長、遠藤次長）

【我孫子市議会】

◎議員定数のあり方について

1 我孫子市・青梅市の概要

項 目		我孫子市	青梅市
市制施行年月日		昭和45年7月1日	昭和26年4月1日
人口及び 世帯数	基準日	令和8年7月1日	令和8年7月1日
	男	64,396人	64,514人
	女	67,687人	63,821人
	計	132,083人	128,335人
	世帯数	65,341世帯	67,117世帯
面 積		43.15 k m ²	103.31 k m ²

2 我孫子市議会議員定数の推移

選 挙	議員定数
昭和 54 年 11 月選挙時	3 2 人
平成 8 年 11 月選挙時	3 0 人
平成 19 年 11 月選挙時	2 8 人
平成 23 年 11 月選挙時	2 4 人
令和 9 年 11 月選挙から適用	2 1 人



我孫子市議会より説明を受ける委員

3 議員定数削減の経過

- (1) 令和 5 年 12 月から令和 7 年 12 月までの前半の任期において、議会運営委員会で優先事項として議論を重ね結論を出すこととした。
- (2) 当初の議論の中では、2 人から 3 人の減というところから出発した。
- (3) 我孫子市の人口もピーク時の 13 万 6 千人から 4 千人ほど減少している。
- (4) 削減に反対する意見やもう少し議論を重ねた方が良いとの意見もあった。
- (5) 令和 7 年 12 月定例会で議員定数削減についての条例改正案を提出することに伴い、市民の意見を参考とするため公聴会を開催することとした。

4 公聴会の開催

(1) 開催の根拠

我孫子市議会基本条例第 2 1 条では「議会は、議員定数の改正に当たっては、公聴会、参考人制度等を十分に活用することにより、市民の意向を把握し、本市の実情にあった定数を検討するものとする」こととなっている。

(2) 開催の概要

ア 内容

現在の議員定数を 3 人削減し 2 1 人とする改正案に対し、賛成・反対の意見を伺う。

イ 対象

市内に住所、事業所を有する方

ウ 公述人

9 人出席（賛成者 2 人、反対者 7 人）

エ 公述人からの主な意見

【賛成意見】

- ① 3 千万円に近い公費の削減を市民サービスへ。
- ② 議員 1 人 1 人の責任が明確になる。（少数精鋭で透明性の高い議会に）
- ③ 議員の負担増には事務局機能の強化と I T の活用で対応を。

④議員を減らして市民の為に税金を使って欲しい。

【反対意見】

①人口減少が著しいわけでもない。議員は身近にいて欲しい。

②市民の意見を聴くならば、50人でも100人でもいい。

③定数を減らせば受け持つ市民の数が増え、少数意見が届きにくくなる。

④女性、若者の進出を困難にする。

5 各会派からの主な意見

- (1) 議員定数の削減で議会改革は完結するものではない。むしろその先に二元代表制としての議会機能をさらに充実させる様々な方策を講じなければならない。
- (2) 公聴会では賛成者2人、反対者が7人であったが、削減賛成の声は声なき声であり、改めて公聴会に出てきて賛成意見を述べる方は少ないのではないかと判断し3人減とすべきである。
- (3) 議会運営委員会の協議の中で、3人減という声が多かったので、3人減に賛同する。
- (4) 検討過程では、削減ありきで本質的な議会改革の議論がほとんどされていない状況であった。
- (5) これまでも我孫子市の財政が大変厳しい時に、議員定数の削減を実施してきた。議会運営委員会の中で2年間協議したとおり、3人減と考える。
- (6) 議会改革と議員定数はイコールではないと考えている。行政経費の無駄を改め、効率的な姿勢をつくることは重要な課題ではあるが、議員定数については単純に直結するものでないとする。
- (7) 市民にしっかりと伝えていかなければいけないという作業が足りていないように感じる。市民と議員の双方がしっかりと納得できる方法を模索していくべきである。

6 定数削減の決定に際し良かった点、苦労した点、課題について

- (1) 良かった点

市民の方から公の場で様々な意見をいただけたことや、定数削減を検討する中で多くの気づきが議員1人1人にあり、今後の市議会の活性化に繋がったと考えている。

- (2) 苦労した点

会派ごとや会派の中でも異なる見解がありそれを合意形成したこと。

- (3) 課題について

今後、議会基本条例の検証作業の中で、課題について検証を行っていくこととしている。

7 当日委員からの主な質問に対する回答

問 1 我孫子市の最近の人口動向について伺う。

答 1 日本人の人口は減っているが、一方で外国人の人口は増加している。

問 2 議員報酬の改定等も議論されたか。

答 2 議員定数を減らして議員報酬を増やすということは本質的ではないという考えがあり、今回の議員定数の中では議論は行っていない。

問 3 全員賛成ではない中で意見調整で苦労されたことは。

答 3 議会運営委員会の委員は各会派の代表者が務めていた。そのため、会派に持ち帰って調整を行ったり、2年間にわたる議論を続け、議論を先送りせず、最終的な決着をつけることを目指して進めてきた。

問 4 過去の市民アンケートでは自由意見欄に市民の強い思いが書かれていたが議会ではどのように捉えていたか。

答 4 市民アンケートの自由意見欄で挙げられた内容は、各議員が普段から市民と接する中で直接聴取していた声と一致する部分が多いと認識している。

問 5 議員定数削減が選挙の争点となっていたのか。

答 5 市民の中には議員定数が多いと感じる雰囲気があった。また、選挙公約で定数削減を掲げる議員もいた。過去には議員定数削減議案が3回否決されており、議会の中でもいつまでも議員定数削減を議論していくのはどうかという雰囲気もあった。今回の削減は議会としての決着を図る動きであったと言える。

問 6 議員定数を削減をするにあたり、もっとも重要な項目は何だったのか。

答 6 市民の議員定数が多いのではないかと市民感覚を感じていたのはもちろんあるが、行政を回すのは潤沢な資金であり、我孫子市は大企業もなく財政基盤が弱いと感じていたことから、議会として率先して改革に取り組むことが重要だと考えた。

**問 7 日暮議長の情熱がなかったら議員定数は削減できていなかったと思うが
議長の思いをお聞かせ願いたい。**

答 7 議員定数を削減することで民意が反映されなくなるとの懸念を示す方もいるが、我孫子市には自治会組織がしっかりと整備されており、極端なことをやらない限り民意が反映されないという事態は考えられない。そのため、削減を進めるべきだと感じていた。



我孫子市議会を視察した正副議長および議会運営委員

【視察を終えて】

このたびの視察に際し、大変お忙しい中ご対応いただきました我孫子市議会の皆様に、心より感謝申し上げます。日暮議長様、西垣議員様をはじめ、多くの事務局職員の皆様からご教示いただいた内容は、当市議会における今後の議論において非常に有益であり、大きな収穫となりました。この場を借りて再度、心からの御礼を申し上げます。

我孫子市議会では、令和9年11月の一般選挙から議員定数を従来の24人から21人へ削減することが決定されています。その過程では、議会運営委員会において2年間にわたる議論を重ね、公聴会の開催を通じて市民の意見を丁寧に聴取されていました。

また、一人会派の議員を委員会に委員外議員として参加させ、意見を反映させる取

り組みも行われており、その姿勢には非常に感銘を受けました。

当市議会でも議員定数のあり方について議論を進めていますが、この問題には多様な考え方があり、意見が異なることも当然だと認識しております。しかしながら、議論を重ねることで初めて前進が可能になると考えております。

我孫子市議会のように、市民の意見を積極的に聴取し丁寧に議論を重ねる姿勢は、私たちが学ぶべき重要な点であり、改めてその意義を強く感じました。

本議会運営委員会では、引き続き所管事務調査事項の調査・研究を行うとともに、先進自治体の取り組みを参考にしながら議論を深めていきたいと考えています。そして、市民の期待に応える信頼される市議会を目指し、しっかりと活動してまいります。

(議会運営委員長 久保 富弘)